淑徳大学広報誌

Together

SHUKUTOKU
http://www.shukutoku.ac.jp
No. 212 2016.7.1 Summer

学長メッセージ
当事者意識を持つことの大切さ

ともいきのこころ
どのような状況でも、
人々のために、
自らの信念に従って
果敢に行動する。

特集2
新入生セミナーへ
行ってきました！

淑徳人
児童養護施設子供の家職員
宮原 加澄美さん

NEWS CLIP

知識モリモリ×健康モリモリ
健康番組狂想曲

淑徳大学と雄勝町にとっての
2011年3月11日
そしてその後、これから。

後編

Cover Person
木村　早希さん（実践心理学科２年）

CHIBA

日本駐在中国大使ご一行来学

2016年5月25日、中華人民共和国の駐日特命全権大使 程永華閣下ご一行5人が本学千葉キャンパスを訪問されました。学長室で行われた会談では、長谷川匡俊理事長と足立叡学長が、歓迎の挨拶と大乗淑徳学園と本学の概要を説明しました。程大使からの挨拶に続いて、総合福祉学部長の戸塚法子教授が日本の社会福祉の概要を説明し、大学院社会福祉学専攻主任の村上信教授が日本の医療制度と医療政策、高齢者保健福祉政策の変遷について解説をしました。

会談と大学施設見学の後、長谷川理事長の同伴で本学の姉妹施設である特別養護老人ホーム淑徳共生苑に場所を移し、実際の高齢者福祉の現場を視察しました。林房吉施設長の解説を聞きながら見学を行った後は、程大使の希望により、実際に入居者へ提供されている食事を召し上がり、本学同席者と両国の高齢者福祉施設の実情について話しをしました。

近年、日本に負けないスピードで高齢化が進んでいる中国では、日本の社会福祉の制度や技術について、高い関心を持たれています。国内福祉系大学の先駆者的存在でもある淑徳大学を訪問したいという大使自らの申し出でにより実現した今回の会談と視察は、本学にとっても、今後の福祉教育の充実に大きな弾みを付けるものとなりました。

CHIBA

アジア国際社会福祉研究所

http://www.shukutoku.ac.jp/shisetsu/asiancenter/

モンゴル国立大学での打ち合わせ

アジア国際社会福祉研究所は、アジアおよび世界における国際社会福祉／ソーシャルワーク研究の向上に寄与することを目的とし2016年4月に設立されました。常にアジアに、そして世界に目を開き、多くのことを受発信する窓口を目指しています。

研究所は、その目的を達成するために国際共同調査研究、国際フォーラム等の実施、人材養成、国際組織への貢献、出版や資料収集その他多くの事業を実施します。

人材養成においては、研究所でアジアの大学教員を訪問研究員としてお迎えし、2年間のうちに博士論文を仕上げ帰国して頂くというプログラムを10月に開始します。コース付き論博プログラムで社会福祉の博士号を取得する機会を提供するという世界でもユニークなものです。

ベトナムでの聞き取り

また、研究所は、アジアにおける仏教社会福祉／仏教ソーシャルワーク学術研究交流のハブとして仕えることを目指すアジア仏教社会福祉学術交流センター（2014年4月設立）を抱えています。センターは、淑徳大学が平成27年に採択されました文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の運営サポートも引き続き行います。現在、アジアにおける仏教ソーシャルワークの現状をテーマに、国内外の共同研究者とともにミャンマーやスリランカなど多くの国と地域で調査を進めています。

アジア国際社会福祉研究所の最新の出版物

表紙の人 Cover Person

バドミントンサークル ペンギン村
（左側が木村さん）

木村 早希 さん ／総合福祉学部 実践心理学科 2 年

大学のオープンキャンパスで犯罪心理学の体験授業を受けた際、心理学を学びたいと思い、千葉キャンパスの実践心理学科に入学しました。

講義では、実際に実験をしたり、日常生活で使えるような心理学まで幅広く学んでいます。

将来は、心理学を活かせる職業に就きたいと思っています。また、サークル活動やオープンキャンパスでのアドミッションスタッフに積極的に参加しています。先輩や他学科の学生とも、たくさん触れ合うことができるので、大学生活のことや進路のことなど、様々なお話も聞くことができ、楽しい大学生活を送っています。

CHIBA2nd

大学院 看護学研究科新設 3号館が完成

4月に竣工した千葉第二キャンパス3号館ラウンジ

看護学研究科は、卒業生や現場で働く看護職者から寄せられる、「看護に関する最新の知見を学び、研究能力を高めるとともに、若手の看護管理者を育てたい」との要望に応え、2016年4月に開設されました。

3号館が完成し、5名の大学院生と3名の科目等履修生を迎え、修士課程の教育が始まっています。

看護の実践と研究、人材育成に貢献できる能力を高めるカリキュラムで、地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与する看護専門職者の育成を目指しています。

看護学研究科の講義風景

SAITAMA

ソフトボール部 全日本大学選手権大会（インカレ）出場決定！

ソフトボール部は、去る5月21日から23日にかけて行われた予選会を見事勝ち抜き、「文部科学大臣杯　第51回全日本大学選手権大会」への出場を決めました。皆さまの多大なるご支援をいただき、ありがとうございました。

大会は、8月26日から29日にかけて鹿児島県南九州市知覧にて行われる予定です。今後ともご声援のほど、よろしくお願いいたします。

一季一言

当事者意識を持つことの大切さ

淑徳大学　学長　足立（あだち） 叡（あきら）

5月26日、千葉市中央区選挙管理委員会と本学との間で「投票所設置に関する覚書」が締結されました。これにより、今年7月に執行予定の参議院議員通常選挙において、千葉キャンパス内に期日前投票所が設置されます。4年前からコミュニティ政策学部の学生が中心となって「若者の投票率向上」の問題に取り組み、地域における活動のなかで感じたことや考えたことをもとに大学や地域に提言し、このたびの覚書締結が実現しました。大学内に期日前投票所が設置されることは、千葉県内で初の試みとなります。

多くの若者が政治に対して無関心であることは、以前から指摘されてきました。投票により政治に参加する、主体的に社会に参加しようという意識を持つことは極めて重要です。公職選挙法等が改正され、今年から選挙権年齢が18歳に引き下げられます。主に18歳から22歳の若者が集まる大学が、学生が選挙権を持つ主権者であるという意識を自覚的に持てるような教育的環境を整えることはますます必要になっています。

本学の教育理念である地域貢献においても期待が高まっています。大巌寺・白旗地区の方々にも期日前投票所を開放し便宜を図ります。また先日は、コミュニティ政策学部の活動をもとに、高校の先生方に本学の教員が講演し好評をいただきました。生徒・学生が国や地域の一員としての自覚を持ち、そこに主体的に関わっていけるよう促すことは高大連携教育においても重要なテーマになるでしょう。

学祖・長谷川良信先生は「在野」の精神を大切にしていたと言われています。いわば、制度として与えられる社会福祉でなく、民衆からの草の根的な、自生的な福祉こそが、本当の福祉社会を実現する道であるというような考え方です。その根底には「他者の痛みを自分のものとする」、強い当事者意識があることは言うまでもありません。

女性・高齢者の活躍が期待されていますが、豊かな社会を実現するには、立場や年齢を問わず、一人ひとりが世の中の問題や将来を自分のこととしてとらえ、考え、議論や発信をしていくことが大切です。それが、自分の人生を選び、創っていくことにもなります。「共生き」を学ぶ本学の学生が、この取り組みを期に、社会へさらなる一歩を踏み出すことを願っています。

淑徳大学と雄勝町にとっての2011年3月11日。そしてその後、これから。

後編

前号を振り返って

東日本大震災から5年が経ち、本学が継続してきた支援を総括し、さらに有意義な活動として展開していくためにこの座談会は企画されました。

座談会には、足立叡学長、岩佐勝氏（本学OB・／元石巻市立大須中学校校長／大須小学校避難所責任者＝当時）、そして現地でのボランティア経験のある高浦美咲さん（社会福祉学科4年）、高木直揮さん（社会福祉学科4年）、千葉瑛梨奈さん（実践心理学科2年）が出席。足立学長、岩佐氏から震災発生・支援活動開始直後の状況が紹介された後、学生たちが支援活動に参加した動機や感想を語りました。続編となる今号は、これからの活動の展望がテーマです。学祖・長谷川良信先生が私たちに託したことはなにか、その使命にどう取り組んでいけば良いのかを共に考えてみましょう。

震災から5年―。本学の支援のあり方を確認する。

座談会出席者

足立学長

岩佐 勝氏　元石巻市立大須中学校校長。大震災発生直後から雄勝町大須小学校避難所の責任者として対応にあたる。同避難所での支援活動、その後の学習ボランティア活動等、学生に受け入れにあたりご尽力いただいている。1978年、社会福祉学部卒。

高浦 美咲　社会福祉学科4年。地域支援ボランティアセンター所属。1年生の夏に初めて雄勝花火大会に参加。以降活動を継続し、現在は雄勝町のPR動画の制作に携わっている。

高木 直揮　社会福祉学科4年。1年生の時にともいきハウスの整備作業に参加し、その後もスタディーツアーなどで石巻市や南三陸町を訪れる。教育学、中でも特別支援教育に関心がある。

千葉 瑛梨奈　実践心理学科2年。念願がかなって、雄勝町を今年2月に初めて訪れる。現在は、高浦さんと共に雄勝町の魅力を伝える動画の制作に取り組んでいる。

『足立学長と当時の大須中学校の生徒たち』
避難所の皆さんから感謝の言葉をもらい、当時岩佐氏が校長を務めていた大須中学校で生徒に挨拶を述べる学長。この時の生徒たちの真剣な眼差しは忘れられないという。

『ともいきカレンダー』
雄勝の方々と本学ボランティアセンターとの共同で作成。

毎年3月に行われているスタディツアーの様子

つながりを深めていくこと。震災の経験を活かすこと。

足立　現地の方々とみなさんとが、まさに人と人、心と心のつながりを続けていることをとても嬉しく思います。高浦さんと千葉さんは雄勝町のPR活動を続けていますね。

高浦　私が2年生の時に始まった企画です。活動の幅を広げていきたいという声があり、地域支援ボランティアセンターのメンバーが雄勝の魅力を多くの人々に知ってもらうためにはどうすれば良いか話し合って生まれました。自分たちで写真を撮り、文章も考えてつくったので大変でしたが、雄勝の方々が喜んでくださっていると聞いてほっとしています。

千葉　高浦さんと一緒に活動に参加させていただいていました。ずっと雄勝町に行きたいと思っていましたが、2月にようやく時間ができて、今がチャンスだと思って取材に行ってきました。今年度は、雄勝町のPR動画もつくろうと計画しています。

足立　地元の方々のためにも、まだ雄勝を知らない人々のためにも続けてほしいですね。

高木　私が初めて雄勝町に行ったのは1年生の6月でした。倒れた防潮堤、山積みにされた車を見て、言葉にならない衝撃を受けました。その後もスタディーツアーなどに参加しましたが、現地を訪れるたびに、現状をもっと多くの人に知ってもらいたい、災害は避けられないかもしれないけれど命を守る大切さを伝えていきたいと思うようになりました。自分を守ることは大事な人を守ることにもつながるのです。どうしたらそれができるかを考えるには、もっと現場を見ないといけないと思い、自分なりに学びを継続しています。

岩佐　とても良いことを言ってくれたと思います。雄勝の経験を、今後起こり得る災害に活かしていかなければいけません。昨年、私は9回ほど上京しましたが、関東の友人と話していても、危機感が薄い気がしてなりませんでした。東日本大震災の火災のうち、約4割が津波火災が発生する可能性も十分にあります。そういう時の避難の場所や経路など、さまざまなシュミレーションをしておくことは絶対に必要です。教員はもちろんのこと、福祉、看護など、人を相手にする仕事を志すみなさんには防災をぜひ学んでおいてほしいですね。

足立　同感です。これまで、専門職の教育に防災は入っていませんでしたが、本学も力を入れていかなければいけないと思っています。みなさんの話を聞いていて、本学と雄勝の方々との関わりをいっそう深めていくことはもちろんですが、一般社会と被災地をどう結びつけていくか、さらに雄勝のコミュニティの再生といった「人のつながり」、そして未曾有の経験をどう活かしていくかという「防災」、このような観点が今後の活動のテーマになっていくような気がしました。

震災から５年―。本学の支援のあり方を確認する。

雄勝町は淑徳大学のもうひとつのキャンパス

足立　あらためて、私たちがやらなければいけないことはまだたくさんあると感じます。岩佐先生、今後の活動についてなにかヒントはありますでしょうか。

岩佐　やはり、明確な目標がないと活動しづらいことは確かです。震災から5年が経ちましたから、被災地の人々もこういったことをやってほしいという思いが薄らいできているのも事実だと思います。ただ、学習支援ボランティアやパネルシアターの活動など、ぜひ続けて来てほしいと期待する声が多くあります。毎年来てもらって本当に良かったと思っています。また、雄勝をはじめ東北ではいろいろなイベントを行っています。たとえば鎮魂のために竹灯籠をつくって思いを託す活動や、私の地元の山元町では「コダナリエ」という街をイルミネーションで飾る催しがあります。亡くなった方にクリスマスの電飾で彩られた美しい故郷を見せてあげようと思いから始まったものです。非常に盛況ですが、残念ながら人手が足りません。こうした現地の要望とうまくマッチできれば、もっといろいろなことができるのではないかと思います。東北はまだまだ厳しい状況ですが、これからも応援を続けてもらえればありがたいと思っています。

宮城県山元町のイルミネーションイベント「コダナリエ」

足立　学生のみなさんは今後どのように雄勝や東北と向き合っていきたいと思いますか。

高木　4年生の卒業論文では、減災をテーマにしたいと考えています。卒業論文という記録に残れば誰かが読んでくれ、そこで興味を持ってもらえれば、支援の輪がもっと広がっていくのではないかと思うのです。東日本大震災の経験を活かし、今後不幸にも災害が起こった時にひとりでも多くの人の命を救えることができたら、言い方は適切ではないかもしれませんが、犠牲になった方々に対しての弔いになるのではないかと思います。どうすれば良いかすぐには答えがでないかもしれませんが、卒業後も将来にわたってこのテーマに取り組んでいきたいです。

髙浦　卒業論文や就職活動で忙しくなりますが、やりたいことはたくさんあります。学生の今だからできることをもう一度しっかり考えて、後輩の力を借りながら実現していきたいです。私も防災にはとても関心があります。今ゼミで地域福祉について勉強していますが、地域との関係性があっての防災・減災だと思いますから、大学や雄勝で学んだことを、将来施設などに就職した際にも活かしていきたいと思います。雄勝に行ったからこそ伝えられることを出会う人々に発信していきたいし、もちろんこれからも雄勝にうかがいます。

千葉　まずは、先輩から引き継いだ雄勝町のＰＲ活動の中で新たに動画づくりの活動を始め、雄勝の現状を多くの人々に知ってもらえるよう頑張ります。私は心理学を学んでいますから、被災地でストレスを抱えた方々の心のケアにも携わっていけたらと思っています。

岩佐　みなさんをはじめ淑徳の学生たちの活躍に期待しています。私も淑徳の卒業生ですから、共生きということを基本として生活をしてきました。この震災を経て、あらためて勉強したことがあります。米村美奈先生がまとめられた『淑徳人の証言』という本の中に、一期生である川眞田喜代子先生の「学祖の忘れられない言葉」という文章があります。これを読ませていただいて「偉くなるなよ。でも、勉強だけはしなさい」という学祖の言葉が心に残りました。被災者を支援するんだという考えで行けば、どうしても上から目線になります。みなさんはそういう印象はまったくありませんでしたし、やはり淑徳の学生は違うなとあらためて思いました。ですから、雄勝の人々が温かく迎え入れたことは言うまでもありません。ボランティアでも旅行でも、ひとりでも多くのみなさんが訪れ、つながりが広がっていくことを願っています。

足立　雄勝を中心に、現地のニーズを確認しながら期待に応えられるような活動を、今後も継続していきます。その意味で、雄勝町は、淑徳大学にとってもうひとつのキャンパスなのです。今、岩佐先生もおっしゃっていましたが、他者と共に生きる、他者によって活かされているという感恩奉仕の精神は教室の中だけで学ぶことはできません。雄勝のみなさまにあらためて感謝申し上げるとともに、学生諸君は積極的に関わり、学祖のこころを受け継いでいってほしいと思います。今日はありがとうございました。

２０１１年３月11日。そしてその後、これから。

学生たちが被災地にてパネルシアターを通じ、子どもたちや高齢者に対し笑顔を取り戻し元気になってもらう為の支援として震災の年から継続して活動をしている

今年も宮城県石巻市雄勝町にて、鯉のぼりを揚げるボランティアへ毎年続けている現地の方々を元気づける重要なイベントの一つです。

第６回　石巻市立大須小学校・中学校
『学習支援ボランティア募集』

この夏、子どもたちとともに、地域とともに、災害の現実に学び、その復興について一緒に考えてみませんか？

- ○ 期　　日　　平成28年7月31日～8月5日　５泊６日
- ○ 行　　先　　宮城県石巻市雄勝町大須地区
- ○ 募集人数　　ボランティア学生6名（予定）

詳細は各キャンパスの窓口までお問い合わせください。

今改めて防災の取り組みを

卒業生の岩佐氏は、東日本大震災直後の２０１１年４月に石巻市雄勝地区にある「石巻市立大須中学校」の校長先生として赴任しました。津波の被害はもちろんありましたが高台に住む人が多いことなどから、命を失った方はあまりいませんでした。しかし陸路が分断され、周囲の街もひどい被害を受けていました。雄勝地区は陸の孤島になってしまったのです。大須小学校が学区の避難所となっており、最初の仕事は、避難所の運営委員（役員）になることでした。

今、関東などでも大きな地震が起こりかねないと言われている中、当時の教訓をもとに「防災への取り組み」が必要だと岩佐氏は次のようにポイントを挙げています。

避難する時のポイント

いついかなる場所で、災害に遭遇するかわからない。災害の内容を踏まえて、避難の仕方を次のように想定しておかなければならない。

地震
家の倒壊と火事の想定
慌てて外に出ると、落下物の危険がある。ドアを開けるなど逃げ道の確保と火の元の安全の確認が優先だ。その後、ラジオなどで災害の情報を確認し、留まるべきか、避難するならどこに避難するかの判断をすること。

津波
大きな地震が起きたら、沿岸部は津波が来ると想定する。
できるだけ沿岸部から遠ざかること。高台でも安心せず、更に高い場所へ避難することを考える。（高い建物などに避難することを垂直避難というが、津波火災には対応できないので、できるだけ避ける。東日本大震災では、火災の４割が津波火災であった。）車での避難は、道路の渋滞が想定されるので、できるだけ避ける。

土砂災害
近くの川の状況や住んでいる場所の地盤・地形の点検を要する。土砂が崩れてくる前には、大きな石と石がぶつかり合うために、物の焼けるようなにおいがする。このようなにおいがする前に、避難をしなければならない。

災害といっても、地震や土砂災害などの自然災害から、工場爆発や放射能などの人的な災害まで様々ある。どんな状況にも共通して重要なのは、「冷静に、命を守るために最善を尽くす」ことである。

日常生活での安全対策

地震などの災害は、想定が難しく、突然に巻き込まれてしまいがちである。そのため、日常的に対策や準備をしなければならない。命を守ることが一番大事だが、その対策などは、それぞれの置かれている立場で、内容が異なる。

企業や病院・学校など
大きな施設は、避難者の受け入れを行えるよう準備をしておく。個々人への防災訓練や防災教育も重要である。

個人
一人ひとりが防災意識を高く持つこと。万が一に備え、次のものを肌身離さず常備しておくと役に立つ。
・懐中電灯　・ラジオ　・ホイッスル　・コンパクトブランケットなど

『学校教育の危機管理』
阪神淡路震災について書かれた書籍。1995 年に起こった阪神淡路の教訓を実際にどれほどいかされているのか？と岩佐氏は疑問を呈します。
「教育現場はもとより、人が多く集まる場所こそ多岐にわたる防災のシステムが必要でしょう」

甚大な被害を被った石巻市大川小学校前で
石巻市大忍寺福井住職とともに読経を行う長谷川理事長。

４月には熊本地方で最大震度７を
記録した地震が発生した。
写真は熊本の被害の大きさを物語る。（共に岩佐氏提供）

熊本地震で備えの大切さを再認識

岩佐氏より

地震は予測できないが備えはできる。今年4月に熊本地震が発生しましたが、備えの大切さをあらためて感じます。政府の地震調査研究推進本部の2014年の発表によれば、30年以内に熊本地方で大地震が起きる可能性は1%以下だったと言います。それに対して、関東地方は約70%とか。首都圏で震度4～5程度の地震がたびたび発生していますが、これは東日本大震災前の状況と似ています。上京するたびに私は心配でなりませんでした。

東日本大震災から5年、熊本地震から1か月後の5月13日に、長谷川 匡俊理事長が石巻を訪問され大川小学校や門脇小学校などで読経されました。私も同行させていただき、命を失われた方々のご冥福をお祈りしました。明暗別れた両小学校ですが、門脇小学校も裏の日和山への避難が遅れたら、津波による火災に襲われ危険な状況だったのです。このことを思い出すたびに、そして昨今の地震が頻発する状況に触れるたびに、私が見たこと、経験したことを伝えていかなければならないと強く感じます。

「想定外をなくす日常の努力」「紙一重でも助かる工夫」「防災トレーニング」。備えの基本としてまずこの3つを申し上げておきたいと思います。一人ひとりの防災意識を高めることが求められています。

各キャンパスで行われた募金活動の報告

熊本地震支援募金へのご協力ありがとうございました

大学合計 400,108円　被災地支援のために、日本赤十字社を通じて送らせていただきます。

ともいきのこころ

どのような状況でも、人々のために、自らの信念に従って果敢に行動する。

― 災害・戦災と学祖 ―

5年前の東日本大震災、そして今年4月の熊本地震。本学も直接的な支援活動や募金活動に取り組んでいる。時代背景は異なるが、学祖・長谷川良信先生も、災害や戦災からの復興のために献身的に行動してきた。学祖の信念を受け継ぐ私たちは、今後もどのような危機に直面しようとも、他者を思い、他者のために、自分の持てる力を発揮していかなければならない。ともいきの精神と生まれ育った故郷を未来に受け継いでいく使命が私たちにはある。

関東大震災の一報を受け欧米留学から急遽帰国

１９２３（大正12）年９月１日午前11時58分、関東地方を大地震が襲った。東京・神奈川を中心に、千葉・茨城から静岡に至る広大な範囲に甚大な被害をもたらした。一説によれば、死者・行方不明者は10万5千人余とされている。

この時、学祖は、内務省嘱託および浄土宗海外留学生として、欧米留学中であった。約半年にわたり米国を視察した後、ドイツのベルリンで後の教育事業の基となる女子に対する社会事業教育について研究していた。これに一区切りをつけ、欧州各国の視察に赴こうとした時に関東大震災が発生したのである。学祖33歳だった。

予定を変更して直ちに帰国を決意。シベリア鉄道経由の帰国途上で体調を崩しながらも、小康を得ると病身をおして再び旅程を強行、12月には焦土と化した東京に戻っている。創立7年を迎えたマハヤナ学園の惨状を目の当たりにし、「ゴッタかへしてゐる此（この）東京で扨（さて）何処（どこ）から手をつけやうかしらんと途方にくれた」（『欧米の宗教及び社会事業視察記』）と、愕然とした心境を書き記している。

しかし、立ち直りは早く、矢継ぎ早にマハヤナ学園再建プランを出し、これを精力的に実行していく。学祖の獅子奮迅の活動もあり、学園は驚くべき速さで再建されていった。

さて、ここで特筆すべきは、関東大震災時におけるマハヤナ学園の活躍ぶりであろう。学祖が留守にもかかわらず、職員たちは総動員で、役所・警察・諸団体と連絡をとりつつ、震災によって家を失った人たちを救護し収容している。その後も衣食供給、医療診察活動を行い、さらには無料託児、罹災児童教育、裁縫教授などのきめ細かい救援活動を続けた。この対応の鮮やかさは、世の注目を集めるほどだったという。

学祖の特性によるところが大きいのは言うまでもないが、本学園のＤＮＡは早くから醸成され、今に受け継がれているのである。

大戦からの学園再建と戦災孤児の福祉活動

関東大震災から 20年弱、この間に災禍を乗り越え、学祖の社会事業は基礎固めの時期を終え、発展の時を迎えていた。また、社会事業と並び両輪のように例えられる教育事業（女子の実業教育）も、１９３１（昭和６）年に財団法人大乗学園（巣鴨女子商業学校（現在の淑徳巣鴨高等学校の前身）へと発展し、本格的スタートを切った。

だが、太平洋戦争がいよいよ激しくなる。度重なる空襲で焼け落ちた校舎を前に、学祖は涙ながらに復興再建を誓ったという。学祖の情熱を消すことは誰にもできなかったが、実際に活動を開始するのは、終戦を待たなければならなかった。

そしてようやく終戦を迎え、学祖は再建の決意を次のように語っている。

敗北終戦後、民主主義信条により新日本再建を企図し、国家民族の更生を期する為には女子教育と社会事業とが唯一最善の基盤となることを思い、更に残生を賭し此の両面に最後の奉仕に挺身せん…。
（昭和23年２月「我が経歴及思想」『長谷川良信遺滴』所収）

戦後、マハヤナ学園は東京・板橋に移転。１９５０（昭和25）年、組織変えを経て、学校法人大乗淑徳学園がスタートし、現在に至る。この時、学祖60歳。その後の発展は周知の通りである。

人々がその日の食べ物を求めて動き回る時代、学祖は学園再建に全力を傾ける一方、いち早く戦災孤児・貧児の養護や医療などを実行し、その生活状況の改善のための事業にも着手している。福祉事業、教育事業への学祖の執念には驚くべきものがある。「若かりし頃、大病から再起し、「生かされている」という自覚を得たこと、そして自分が生かされているのは福祉事業をやりぬくためであるという宗教心に裏打ちされた不屈の使命感がその根底にあるのは言うまでもない。

（参考　『トゥギャザーウィズヒム―長谷川良信の生涯』長谷川匡俊／新人物往来社）

写真 右より
・学祖　長谷川良信先生
・戦災孤児の福祉活動
・巣鴨女子商業学校
生誕120年記念展図録より

淑徳人 vol.212

MIYAHARA Kasumi

宮原 加澄美さん

児童養護施設 子供の家 勤務

千葉県生まれ。2015年国際コミュニケーション学部卒業。現職は2年目。教員になった学生時代の友人に、「家でどう勉強を教わると学校では助かる？」といった現場の生の声が聞ける環境は、現在の自分に大いに役立っているという。

東京都清瀬市にある児童養護施設「子供の家」に勤務する宮原さん。かつての児童養護施設は戦争孤児や父母の死亡などで住む家のない児童を預かる施設でしたが、時代の移り変わりとともに入所理由も変化しているようです。
そんな児童養護施設で児童指導員として働く宮原さんは、淑徳大学3年次に学んだゼミが、かけがえのないお仕事と出会うきっかけとなりました。

「ここに帰ってきたい。」そういう空間を作り続けたい。

宮原さんが勤務する児童養護施設とは、さまざまな事情により家庭で生活できない児童を預かり、家庭に代わって養育し、やがて自立させることを目的とした施設のことです。現代は児童虐待法が改正され虐待の定義の幅が広がったため、虐待を理由に入所してくる児童が多いと言います。

そんな児童養護施設で児童指導員として働く宮原さんの主な仕事は、入所者の生活環境を整えること。4歳から18歳まで、幅広い年齢層の入所者がいる男子棟に勤務し、掃除・洗濯・調理に始まり、親の代わりとして保護者会など学校関係の行事に顔を出すこともあります。

「園長の方針が、『きれいな洋服が着られて、温かいご飯が食べられ、温かいお風呂に入れて、きれいな布団で眠れて、きれいな部屋で生活できる環境を整えること』。入所している児童にとって、ここは〝家〟。普通の家庭に育てば普通に得られる生活環境を整えることを大切にしています。」

児童指導員になろうと思ったきっかけは、大学3年生時、河津（英彦）ゼミで児童虐待について学び、その中で出てくる児童養護施設という単語に興味を引かれたから。最初は遊びボランティアとして週1回、児童養護施設に通っていたものの、次第にその活動にのめり込み、気が付けば週5日、アルバイトで通うようになっていました。

そもそもの入学の動機は、小学校の教員になるためでした。しかし、「週5日先生として教室で子どもたちと触れ合うよりも、生活の場で一人の大人として児童と向き合う方が性に合っている。今、お世話をしている子どもたちの成長を見たい」との思いに至り、児童指導員になることを決意しました。

一番のやりがいは、「子どもの成長が見られること」。例えば、朝起きても挨拶すらしなかった児童に対して、毎日声をかけることで、ある日児童の方から「おはよう」と挨拶するようになったことも。

「職員のみんなが毎日声をかけてきた成果。チームワークでやってきた結果、それが子どもの成長につながったと思える瞬間にやりがいを感じます。」

宮原さんのモットーは、「相手を否定をせず、受容と共感の姿勢を貫くこと」。生活がままならない環境で育ってきた子どもたちにとって、児童養護施設は〝最後の居場所〟でもあります。児童指導員の仕事を〝天職〟とも感じている宮原さんは、「子どもたちにとって、良い大人でありたい。そして、『ここに帰ってきたい』と思える空間を作り続けたいです。」と自身の使命感を話してくれました。

Photo × Photo

最近修繕したばかりの「子供の家」外観。見た目が綺麗に、居心地もよくなったそうです。

こども教育専攻の後輩が主催した球技大会。後輩たちが私たちの老体に容赦なかったのが印象的でした。

卒業式にて、こども教育専攻のメンバーと。個性豊かな仲間たちでした。

2016年4月入学生

新入生セミナーへ行ってきました！

今年も、各学部の新入生セミナーが行われました。これから4年間、仲間とともに学び、切磋琢磨しながら一生ものの関係を築いていきましょう。

千葉 CAMPUS

社会福祉学科	4月22日～23日 鴨川ホテル三日月にて　●映画鑑賞 東京ドイツ村にて　●オリエンテーリング・レクリエーション
教育福祉学科	4月22日～23日 リソル生命の森リゾートにて ●オリエンテーリング・レクリエーション／いちご狩り
実践心理学科	4月22日～23日 鴨川ホテル三日月にて　●グループワーク（コラージュの制作） マザー牧場にて　●カレー作り・園内散策
コミュニティ政策学科	4月22日～23日 一宮シーサイドオーツカにて ●レクリエーション・キャリア教育・学力確認テスト

●コミュニティ政策学科

●社会福祉学科

●教育福祉学科

千葉第二 CAMPUS

看護栄養学部	4月1日 県立青葉の森公園にて ●お花見レクリエーション

●経営学部

●看護栄養学部

●看護栄養学部

埼玉 CAMPUS

教育学部	4月7日～8日 水上温泉にて　●レクリエーション 国営武蔵丘陵森林公園にて　●オリエンテーリング
経営学部	4月7日～8日 水上温泉にて ●学生トークセッション・レクリエーション

●教育学部

●人文学部

東京 CAMPUS

人文学部	4月8日～9日 ホテル松乃井にて　●講話・レクリエーション 伊香保グリーン牧場にて　●飯盒炊飯

ラクロス部

CHIBA CAMPUS

- 代表者　男子　内藤 太来麻（社会福祉学科4年）
  女子　深澤　眞幸（実践心理学科4年）
- 創　部　1991年
- 部員数　31名
- 活動日　週4日
- 活動場所　生実町グラウンド

こんにちは。ラクロス部です！

私たちラクロス部は、リーグ戦に向けて日々練習しています。他大学のラクロッサーと合同練習や練習試合を行ったり、社会人の方々も練習に参加してくださっています。様々な人に支えていただきながら部員一丸となって活動しています。今後の活躍に期待してください！元気いっぱいなラクロス部の応援よろしくお願いします。まだまだ部員も募集中！体験だけでもいいので是非いらしてください。

Making Project in Shukutoku

CHIBA 2ND CAMPUS

- 代表者　小林　沙樹（看護学科3年）
- 創　部　2014年　●部員数　18名
- 活動日　不定期、年４回程度
- 活動場所　千葉東病院、1号館2階共同クラブ室、ラーニングコモンズ

こんにちは。私達は、千葉東病院の外来の待合室の窓の装飾を行っています。みなさんも千葉東病院に訪れた際、窓に飾り付けがされているのを、見たことがあるのではないでしょうか。まだ見たことがないという方は、ぜひチェックしてみてください。毎回趣向を凝らしているため、見応えがあるのではないかと思います。活動回数は年４回と少ないので勉強と両立でき活動しやすいサークルです。活動内容は、画用紙等を用いて皆でアイディアを出し合いながら、各季節のテーマに合わせて装飾を作っています。作ったものは、千葉東病院の看護部長さんや患者さんにも好評で、とてもやりがいを感じます。1年生だけでなく2・3年生の参加も、少しだけお手伝いしてみたいなと思った方も大歓迎です。興味のある方は、ぜひ一度参加してみてください。お待ちしています。

女子卓球部

SAITAMA CAMPUS

- 代表者　佐藤　優衣（文化コミュニケーション学科4年）
- 創　部　1997年　●部員数　7名
- 活動日　毎日　16：30～21：00
- 活動場所　卓球場

私たちは、7月に行われる全日本大学総合卓球選手権団体の部での優勝を第一の目標としています。今年度から新たに鄭日永（チョンイルヨン）監督を迎え、よりいっそう練習に力が入っています。練習は他大学より厳しいと思いますが、「自分より強い選手に勝つ気持ち」を常に持って、質の高い練習を行っています。また私たちはチームワークも大切にしています。全員が「チームのために何ができるのか」を常に考えながら、それぞれの自主性を伸ばしています。韓国遠征など、他大学にはない特色もあり、毎日4時間ほどの練習は、人間性の成長にもつながっていると感じています。

鄭日永（チョンイルヨン）監督

淑徳武道連盟

TOKYO CAMPUS

- 代表者　中井　弘佑（歴史学科3年）
- 創　部　2014年　●部員数　10名
- 活動日　毎週火曜日・木曜日
- 活動場所　3号館アリーナ

こんにちは。淑徳大学武道連盟です。現在10名ほどで、柔道・剣道・合気道・少林寺拳法の4種目を週2回修練しています。武道では、どの種目においても基本がしっかりしていることがさらなる技術の向上につながるため、修練では基本練習に重点をおき練習しています。また、日々の修練をしていくなかで、身体面の技術の向上以外にも精神面を鍛える必要があります。礼儀作法に重点をおきつつ、心技体を総合的に伸ばすことを目標に鍛錬を重ねています。武道に少しでも興味をもってくださる学生が増えることを願っています。

淑徳調査団 vol. 12

第12回を数える「淑徳調査団」は、淑徳大学にまつわるギモンや面白そうなことをリサーチしていく企画です。

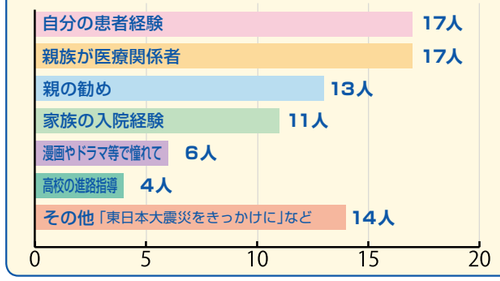
今回は、学生として最後の実習（総合実習）を終えたばかりの看護学科4年次生を対象に、アンケートを実施しました。なぜ、看護師になろうと思ったのか？実習での体験など86名の回答をもとに淑徳の看護学科生を徹底リサーチ!!

今回のテーマ

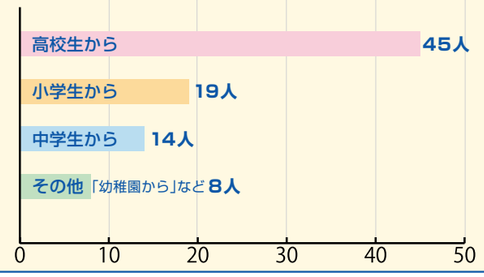
「看護のこと、看護の臨地実習のことをもっと知りたい!!」を徹底リサーチ！

Data 1

Question 1　なぜ看護師を目指そうと思いましたか？



Question 2　看護師になろうと思ったのはいつからですか？



Data 3

看護学科の臨地実習について

看護学科の臨地実習では、少人数のグループを結成し朝早くから夕方まで病院や施設、地域などにて実習します。患者さんを受け持たせてもらい、コミュニケーションやカルテから情報を得ていきます。さらにその情報を分析し、その人にあった計画を立てて看護を実践していきます。看護師の方からの指導に加え、グループ毎に教員もついて、きめ細やかな実習指導が行われています。

淑徳大学の実習項目

実習科目	実施時期	
基礎看護実習Ⅰ	1年次6月	1週間
老年看護実習Ⅰ	2年次9月	2週間
基礎看護実習Ⅱ	2年次2月末	2週間
成人看護学実習Ⅰ	3年次9月	2週間
各領域看護実習	3年次後学期	約半年間
総合実習	4年次5月	2週間

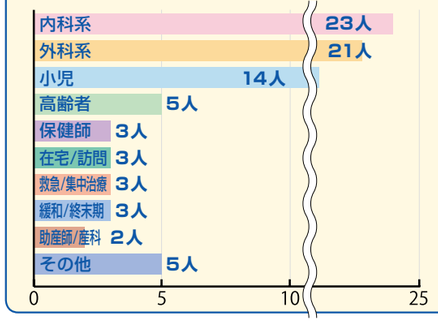
Question 1　実習を通して大切だと思ったことは何ですか？

- 第1位　寄り添う
- 第2位　共生（Together with him）
- 第3位　対象理解

コメント　看護師が患者にとって最も近くにいる存在であることが実感できるキーワードが揃った。実習の現場でもやはり淑徳マインドが着実に根付いている。この思いをこれからも大切にしていきたい。

Data 2

Question 1　将来進みたい科はどこですか？



結果

選択肢は多岐に渡っていたが、病院で看護師として一人前になりたいという思いからか内科系、外科系などの選択が多かった。看護職として臨床経験を積んだのち専門分野に進んでいくことが一般的なため、このような傾向となったと考える。

Question 2　今まで実習をした中で、忘れられない体験は？

- 「ありがとう」「いい看護師さんになってね」と声を掛けられたこと
- 自分のケア（声かけ）で患者さんが歩いてくれるようになったこと
- 小児実習で子どもが走って来てくれた瞬間
- 終末期で緩和ケアを受けている患者さんの体調が実習期間中に悪化し、実習最終日には話すことができないほどになってしまったこと。この実習で、初めて死と向き合うことを学んだ。患者さんと共に過ごした時間は忘れられない体験になった。
- 神経内科での実習の際、体が動かなくなっていく中で「人間じゃないみたい」とこぼす患者さんに出会った。寄り添い話を聞くことしかできなかったが、最後に「あなたに会えて良かった、ありがとう」と言ってもらえた。

コメント　4年間を通して学生は座学だけでは得られない沢山の貴重な経験をし、成長を遂げている。学生時代に受け持った患者さんのこと、患者さんや家族からもらった言葉、実力不足の悔しさすらも忘れられないものである。

カンファレンスの様子

取材：勉強会サークルiosのメンバー　6名＋教員

右上より　大戸　聖奈さん（2年）
西川　史織さん（2年）
佐藤　孝基さん（2年）
宮崎　文太さん（2年）
加藤　静子先生

右下より　傳田　善之さん（2年）
伊豆　孝太さん（2年）

淑徳調査団　メンバー募集！

探ってほしいテーマや調査に参加してくれる団員を募集しています。（ゼミ・サークル可）

reply@soc.shukutoku.ac.jp

NEWS CLIP

2016.04-2016.06

学生が多いなか、やはり一番苦労するのは毎日の食事です。こうした不安を少しでも解消しようと20名の学生が参加しました。

当日の料理は餃子・かんぴょう巻き・けんちん汁の三種類。お手伝いとして、今春発足したばかりの人文学部「栃木県人会」が協力してくれました。特に普段料理をし慣れない男子学生は、慣れない手つきで悪戦苦闘しながらも、どうにか美味しい料理が完成。また、レクリエーションとしてクイズ大会も併せて実施。教員から差し入れられたお菓子をめぐって楽しい時間を過ごしました。

人文学部体育祭開催

6月4日、東京キャンパス3号館アリーナで人文学部体育祭を開催しました。

開設1年目の一昨年は、雨天中止となりましたが、昨年度のボーリング大会に続いて、今年度はドッチボールで熱戦を繰り広げました。当日は1年生から3年生までの108名がエントリー。学部長の宇佐美正利教授による開会宣言、学生の選手宣誓、準備体操を経て、いよいよ試合開始。優勝チームには、学食10日分の無料チケットが配布されるとあって、開始当初から異様な熱気が会場を支配しており、ゲームは真剣そのものでした。優勝したのは、「チームEXP.」。全日程終了後には、学食にて懇親会。子どもの頃に戻って繰り広げられたお互いの熱戦と健闘を讃え合う時間となりました。

スタッフの仕事などを肌で感じる事を目的としています。5月には地域子育て支援センターで0～1歳児親子を対象に読み聞かせ、パネルシアター、ヘビのパペットダンスなどの公演をさせていただきました。学生からも「すごく緊張したけれどとても楽しかった。」「乳児はまだしゃべれないので接し方の違いや言葉がけの違いがある事に気がつきました。」などの声が聞かれました。

経営学部1年生による工場見学

経営学部経営学科では、経営学の実践的学習の一環として、1年生全員を対象としました工場見学を6月1日に実施しました。今回は、埼玉キャンパス近隣にあります大日本印刷と東京カネカフードの工場を、二つのグループに分かれ訪問しました。

工場見学をより有効な学習の場とするため、生産管理の管理要素であるQ（品質）、C（コスト）、そして、D（納期）などについての事前学習をこれまで行なってきました。工場見学当日は、まず、工場側からの説明を受け、その後、工場見学を行いました。今回の学習成果は、事後学習シートにレポート形式でまとめ、実践的学習の視点から、今後の学習につなげていくことになっています。

TOKYO Campus

一人暮らしのための料理教室開催

人文学部では、5月30日に一人暮らしの学生を対象とした料理教室を開催しました。こうした試みは、昨年度に引き続き今年2回目。大学生となってはじめて一人暮らしをする

看護学科総合実習発表会

5月27日、4年次生の総合実習発表会が開催されました。8つの看護分野を学生自らが選択し2週間の実習に臨み、その成果を発表しました。

病院や施設の看護師長や臨床実習指導者の方々にも多数ご参加いただき、来年から看護師としての一歩を踏み出す4年生に向けてエールが送られました。質疑応答も活発に行われ、学生最後の実習にふさわしい学びの共有ができました。

SAITAMA Campus

平成27年度 就職実績および現在の4年生の活動状況

平成27年度就職実績は、就職率96.5%、卒業生に対する就職者の割合は86.9%と過去最高の結果となりました。現在、4年生に対しては、キャリアカウンセラーによる個人の志望に合わせた企業の紹介、模擬面接、応募書類の確認等の個別面談に併せて、ゼミごとの就職活動セミナーやＪＲ東日本等の企業採用担当者をお招きして学内就職説明会を開催し、公務員志望者には外部講師による公務員試験対策講座を開講しています。今期も就職率を100%に近づけるべくキャンパスをあげて万全の体制で臨んでいます。

教育学部こども教育学科2年生による「淑徳子育て支援プログラム」がスタート

幼稚園教諭・保育士免許取得を目指す学生有志が41名集まり、全11回のプログラムを通して保育教材の作成や保育実技の練習を積み重ね、地域の子育て支援センターへ出向いたり大学に園児たちを招待しての公演活動などを行います。

子どもたちと触れ合うことの楽しさや、現場土産に、それぞれの思いを胸に第一回目の会が閉じられました。

第2回 国際料理交流会開催

6月30日、千葉キャンパスの調理教室にて、留学生と日本人学生と教職員の相互理解を深めることを目的とした国際料理交流会が行われました。

この活動は、中国語サークルが企画・運営をし、学生厚生委員会と学生サポートセンターの支援と主催で行われました。田中副学長及び戸塚学部長と山本学部長をはじめ多くの教職員の参加が得られました。

学生と教職員の協力作業により、カザフスタン料理にイギリス料理、中国大陸料理と台湾料理に日本料理、また、中国東北師範大学人文学院から研究で来学中の教員らによる（皮からの）手作り水餃子など、多くの料理が色とりどりに作られました。

全員で協力して作った多国籍料理はとても美味しいと評価され、学生たちと教職員たちが楽しく交流できた会となりました。

CHIBA2nd Campus

第1回　栄養学科管理栄養士交流会

5月24日に、管理栄養士として活躍されている方に管理栄養士の仕事の楽しさや失敗談など気さくにお話ししていただく交流会を開催しました。講演会などでお話を聞く機会とは違い、身近で楽しくお話を聞くことができました。

発表しました。東京キャンパスでは、カフェテリアにて教職員と保護者を交えた懇親会が開催されました。いずれのキャンパスでも好評の声が聞かれ、盛況のうちに閉会の運びとなりました。

CHIBA Campus

大学創立50周年・吹奏楽部創部35周年記念パーティーを開催

3月12日に、淑徳大学千葉キャンパスにて、大学創立50周年・吹奏楽部創部35周年の記念パーティーが開催されました。当日は、現役の部員28名、卒業された先輩方35名が集い、記念すべき年を祝すとともに交流を深めました。

最後には先輩方にもご参加いただき、大学歌を合奏・合唱して記念撮影。パーティーは盛会裏に終わりました。部長の山下さんは、「とても貴重な時間でした。創部35周年という日を迎えられたのも色々な方のご支援や先輩方の力があってのことと改めて実感できました。この記念パーティーの経験を無駄にせず、今後の活動に活かしていきたい」と抱負を語ってくれました。今後も吹奏楽部の活動にご期待ください。

沖縄県人会が開催

今では考えられないことですが、昭和47年まではパスポートが必要だった沖縄県出身者。勉学意欲に駆られ千葉キャンパスに学ぶ学生は当時も多く在籍していました。そしてまた、ここ数年目立って増えている沖縄県出身学生の「県人会」が、5月19日に開催されました。現在、千葉第一キャンパスの沖縄県出身者は15名。そのうち6名の学生が参加し、沖縄を代表する料理、ゴーヤチャンプルなどに舌鼓を打ちました。龍澤祭でのエイサーのお披露目や来年度の新入生歓迎会などの企画も飛び出し、終始和やかな語らいでした。ちんすこう、黒砂糖、乾麺などを手

ALL Campus

淑徳大学アーカイブズ展示室がリニューアルされました

4月4日より、淑水記念館3階の淑徳大学アーカイブズ展示室が生まれ変わりました。展示室は「特別展示室」「吉田久一展示室」「展示室」の3ブロックからなり、現在は「吉田久一展示室」で「吉田久一展―社会事業史研究のあゆみ―」を、「展示室」で「淑徳大学の歴史展」を開催しています。また、「特別展示室」では11月から特別展を開催すべく準備を進めているところですが、それまでの間はアーカイブズがこれまで開催してきた4つの特別展を振り返る展示を行っています。

展示室やエントランスには木材を多用し、「和」の雰囲気漂う空間となっています。多くの方々に足を運んでもらえるような展示内容です。

各キャンパスにて保護者懇談会開催

5月28日から6月11日にかけて、各キャンパスで保護者懇談会を開催しました。指導教員やアドバイザーによる個別面談が行われ、学生の日々の生活や学習状況について保護者の方へ説明されました。

また、個別面談の他にも、千葉キャンパスでは、学科ごとに全大会が開かれ、国家試験受験対策やキャリアに関わる事項などについての説明が行われました。埼玉キャンパスでは、学部説明・就職説明と共に、学生サークルがアカペラと混声合唱を披露し、サークル活動の成果を

SHUKUTOKU Together 212
The Shukutoku University Newsletter
発行日：平成28年7月1日　編集：大学広報編集委員会　発行：大学事務局　制作協力：株式会社図書出版

淑徳大学フェア in 新潟

2016年 7月30日(土) 13：00～

新潟市の朱鷺メッセにて、淑徳大学フェアが開催されます。

今回の新潟県での開催となる大学フェアは、メインイベントとして人文学部の北野大教授と新潟県出身の松永二三男教授（元日本テレビアナウンサー）によるトークイベントを企画しています。

また、「職業人インタビュー」と題し、福祉分野・教師・看護師として働いている卒業生の相談ブースも設置されます。

お申込み・お問い合わせ先
淑徳大学同窓会事務局
TEL　043-265-6882
FAX　043-265-6886
E-mail　dousoukai@soc.shukutoku.ac.jp

淑徳大学 Marines スペシャルナイター

©CLM

みんなで千葉ロッテマリーンズを応援しよう！

全キャンパス学生対象

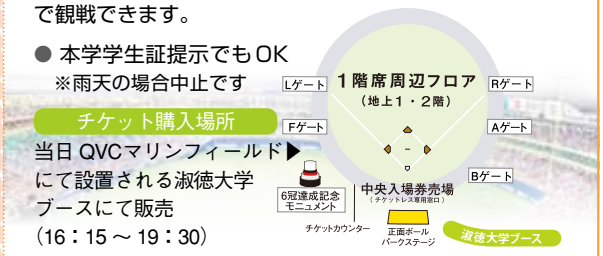
千葉ロッテマリーンズ VS 北海道日本ハムファイターズ

8/3(水)　18：00　試合開始　QVC マリンフィールド

当日本誌（Together 212号）を見せると、内野自由席入場料　通常2,300円→**500円**（1名様）で観戦できます。

● 本学学生証提示でもOK
※雨天の場合中止です

チケット購入場所
当日 QVCマリンフィールド▶にて設置される淑徳大学ブースにて販売
（16：15～19：30）



知識モリモリ×健康モリモリ vol.13

今回は飯坂 真司 先生に伺いました。

健康番組狂想曲

栄養と健康の話題は連日テレビに登場します。「たった△週間で□kg減少」「翌日から効果を実感（個人の感想）」…この結果を本当に信じますか？ニセ科学に騙されず、根拠を正しく見極めましょう。

第一に、人に対する研究が必要です。人の健康には生活習慣や環境など多くの要因が影響し合います。試験管や動物の実験結果のみでは根拠になりません。

第二に、根拠のランクです。最も低いのは専門家の意見や事例、次に実際の習慣と健康を比較する観察研究、最上位はランダム化比較試験（RCT）です。新薬の開発でなじみ深いRCTは、意図的に介入する群と介入しない群を作り、そのどちらかに対象者をランダムに割りつけるため（くじで選ぶイメージ）、他の要因の影響を受けることなく介入効果を証明できます。実際、ビタミンAは、観察研究ではがんに予防的でしたが、補助食品を使ったRCTでは死亡率を高めたことが知られています。

最後に、研究の質です。対象者の条件や数は十分か、両群は均質か、効果は統計学的に検証されているか、など人の健康への効果を証明するのは一苦労です。テレビを観る時は、グラフの下に「小さく」書かれている「根拠の調べ方」にご注目ください。

編集後記

本を読むのが好きだ。

本と言っても、何も堅苦しい専門書や参考書の類ではない。流行っている作家の作品を文庫本で、通勤のバス車内で一冊。読書家と呼ぶには、程遠いのだけれど。

この5月、私は異動になった。Together の編集に携わるのも、もちろん初めてだ。これまでとは違う環境、仕事に戸惑った。そんな私を救ってくれたのは、小説の中でめげずに体当たりしていく、前向きな女史の姿―そう、本には自分とは全く別の人物の生き方を「疑似体験」できる力がある。しぼんだ私の心は、本を読み終える頃には不思議と前向きになっていた。

大学時代の恩師から「大学生ほど、自由に時間を使える時はない。何でも良いから、本をたくさん読みなさい」と言われたことがある。私が大学を卒業して数十年経つが、学生の皆さんへ、恩師からの言葉をそのまま贈りたい。日々を生き抜く知恵や未来に向けてのたくさんのヒントが、小さな本に隠されているかもしれないから。（横尾）

「淑徳大学広報」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております！　reply@soc.shukutoku.ac.jp

千葉キャンパス
総合福祉学部　コミュニティ政策学部
大学院 総合福祉研究科
〒260-8701
千葉県千葉市中央区大巌寺町200
TEL：043-265-7331

千葉第二キャンパス
看護栄養学部　大学院 看護学研究科
〒260-8703
千葉県千葉市中央区仁戸名町673
TEL：043-305-1881

埼玉キャンパス
国際コミュニケーション学部
経営学部　教育学部
〒354-8510
埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
TEL：049-274-1511

東京キャンパス
人文学部　淑徳大学短期大学部
〒174-0063
東京都板橋区前野町6-36-4
TEL：03-3966-7631

池袋サテライト・キャンパス
〒171-0022
東京都豊島区南池袋1-26-9
第2MYT ビル7F
TEL：03-5979-7061